

来週の「売り物記事」はこれ



2018年2月9日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

いかだで天空の星を目指す

星槎グループ会長・宮澤保夫さん

11日(日)



半世紀近く前、登校拒否や学習障害の子供たちに居場所を提供する塾を始めた人がいました。現在、神奈川県に本部を置く星槎(せいさ)グループ会長の宮澤保夫さん(68)＝写真＝です。たった2人の生徒から始めた塾でしたが、評判を聞いて多くの子どもたちが集まります。従来にない



学校が必要と痛感して宮澤さんが立ち上げた学校は、グループ全体で約3万人の生徒が集うまで成長しました。星槎という名は、長短ばらばらな木をつないだ槎(いかだ)で天空の星を目指すという中国の伝説が由来です。教育界に変革をもたらす宮澤さんの足跡に迫ります。

筆者は医療福祉部の田中泰義記者です。

英国では対策担当大臣を新設 でも本当に必要なのは…

日本は「孤独」大国なのか 夕刊特集ワイド 14日(水)



「孤独」を愛する人がいれば、「孤独」に悩まされる人もいます。その「孤独」が健康などに悪影響を及ぼすとして先頃、英国のメイ首相が「孤独担当大臣」の新設を発表、話題になりました。翻って日本。高齢者や独身者の「孤独死」が問題となり、将来に希望を見いだせない若者たちの自殺願望も指摘されています。日本的な孤独の背景には、どんな事情があるのでしょうか。考察を続けてきた人たちと一緒に探ります。

望ましい姿は? どうする幼児教育無償化

オピニオン面 [論点] 14日(水)

自民党が昨年10月の衆院選で公約の柱に掲げた「幼児教育・保育の無償化」は来年4月にも一部が実施される予定です。「認可外の施設は無償化の対象にはしない」との当初の政府方針が報じられると、認可外利用者らから反発の声が上がりました。無償化の対象範囲を見直す議論はなお続いています。無償化はどのようにすべきでしょうか。識者や関係者に聞きました。



時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

ぱらすアルファ 子どもの事故防止

くらしナビA面 14日(水)



1月下旬、堺市でドラム式洗濯機の中に閉じ込められた5歳の男児が窒息死する事故が起きました。国によると、不慮の事故で亡くなる14歳以下の子どもは年間292人に上ります。子どもが安心して暮らすために家庭内でどのような対策を取ればよいのでしょうか。子どもの事故防止情報を発信する「京あんしん子ども館」(京都市中京区)を取材しました。

卒母座談会

くらしナビA面 16日(金)

昨年5月、漫画家の西原理恵子さんが、母親業を卒業して第二の人生を楽しむ「卒母」を宣言して話題になりました。本紙は7～9月、読者投稿「卒母のススメ」を掲載し、多くのお便りやメールが寄せられました。投稿者の中の3人の女性に集まってもらい、卒母のきっかけや、子どもとの距離の取り方などを大いに語る座談会を開き、本音で語り合いました。



My Way 柿沢安耶さん

週刊

サラダぼうる

12日(月)



東京・目黒でオーガニック野菜スイーツ専門店を営むパティシエの柿沢安耶さん。スイーツに野菜を使えば栄養があり、低カロリーのケーキが作れ、客の健康によい。野菜の消費量が増えれば農家の収入も増え、長く続けられる。そんな思いから全部のケーキに野菜を入れた専門店を開きました。野菜にちゃんと向き合うことを訴える柿沢さんがその魅力を語ります。

腰部脊柱管狭窄症 予防や治療

きょうのセカンドオピニオン ワイド版

医療・福祉面 14日(水)

脚のしびれや火照りを中心とした症状が表れる腰部脊柱管狭窄症。医療相談コーナー「きょうのセカンドオピニオン」に、読者から最も多く寄せられる疾患の一つです。そこで、ワイド版を特集することになりました。症状の特徴、再発や悪化の防止方法、手術以外の治療法、さらにはサプリメントの効果について、慶応大の中村雅也教授(整形外科)にうかがいました。また、似た症状の閉塞性動脈硬化症についても山王病院の宮田哲郎・血管病センター長に解説していただきます。



戦後初の甲子園 センバツ高校野球企画

スポーツ面 16日(金) から全6回



71年前の1947年、戦後初の全国選抜中等学校野球大会が甲子園球場で開かれました。戦争の傷痕が残る時代、占領軍総司令部の「春先に全国大会は必要ない」という指導方針から中止の危機もありましたが、関係者たちが「野球で希望の明かりを灯そう」と努力し、開催にこぎつけました。この大会を機にセンバツは野球の技量だけでなく、学業成績なども含めた品位、教育的視点を強く打ち出すようになります。この大会、そして学制改革で「高校野球」となった翌48年の大会を、出場選手たちの証言や資料、文献を基に振り返り、センバツの意義を考えます。